

第5回品川区基本構想等策定委員会 議事概要

日時：平成19年10月25日(木)

14:00~16:00

場所：品川区役所第2庁舎

251~253会議室

1. 開会

2. 委員長挨拶

- ・本日は基本構想素案の案とキャッチフレーズの2つの議題について議論を行いたい。
- ・これまでの議論をもとに、事務局で基本構想素案(案)をまとめた。今後、素案(案)をパブリックコメントにかけ、1月の委員会では、その結果を反映した構想素案について最終的な議論を行い区長に答申する予定である。
- ・本日お配りした基本構想素案(案)はたたき台であり、本日の議論をもとに修正することも当然可能である。

3. 基本構想素案(案)について(事務局より資料に基づき説明)

委員

- ・人間尊重の社会に関する宣言、非核都市宣言といった既存の宣言については、継続して掲載して欲しい。

委員

- ・笑顔条例の必要性について前回指摘を行ったが、それよりも取り組みやすいものとして、笑顔体操を提案したい。これにより、家族間・親子間のコミュニケーションの場が得られ、より良い関係を築くことができるかもしれない。
- ・また、笑顔体操を夕方5時~6時に実施すれば、地域に笑顔が生まれるだけでなく、防犯上も好ましい効果が得られるのではないかと。

委員

- ・住民税を支払う住民としての区民に加え、区内で働く事業者も今日では地域貢献を少なからず行っているため、基本構想のなかで、事業者をどのように位置づけるのか検討して頂きたい。
- ・区と区民との協働という記述があるが、区と事業者の協働関係も当然存在しているため、そのような表現がどこかに入ると良いと思う。

委員

- ・p3「3. 区民と区との協働で、「私たちのまち」品川区をつくる」のなかで、区との協働の例示として、町会・自治会との関係が挙げられているが、そこに事業者や区の委託を受けているNPOが明記されると良いと思う。

委員

- ・ p 1に「街かどでは、子どもたちの歓声を聞くことは少なくなりましたが、」とあるが、否定的な表現になっているため、やや気になる。
- ・ 全体的に「まち」という表現がキーワードとなっているが、ひらがなで書かれているため、文中に埋もれてしまっている。傍線を引くなど、強調し分かりやすくした方が良いと思う。

委員

- ・ p 8で環境都市を掲げるのであれば、「都市像の実現に向けて」の項目のなかで、区民が自主的に取り組むことのできる活動への支援、環境教育等を盛り込んだ方が良いと思う。

委員

- ・ 区政 60 周年を踏まえ改訂される基本構想の序文として、第 1 章の記載内容やサブタイトルは分かりやすい。
- ・ 新幹線の品川駅開業に比べ、羽田空港の国際化が、なぜ品川にとって特筆すべき環境変化なのか、記載内容からは伝わってこない。以降に書かれている「国際都市」の伏線、その論拠とするのであれば、もう少し内容のアレンジが必要ではないか。
- ・ p 1「このような大きな変化の中にあっても、守るべきものがあります」とあるが、やや受け身な表現になっているため、「守り発展していく」と変え能動的な意味合いを持たせた方が良い。
- ・ p 1では「区民と区の共同指針」、p 3では「区民と区との協働」とあるが、p 10では「区民と区政」となっている。これまで品川区では、「区民と区政」という位置づけであったと思うが、今回の改訂にあたり考え方が変わったということか。
- ・ 第 2 章は文化に関する点も加えて頂いたので良いと思う。ただし、p 3のコミュニティについて、その質の変容に関する記述が薄いように思う。NPO などの新しいコミュニティでは、従来の自治会等、13 地区単位をベースとするものとは異なる活動を展開している。その点について、何らかの認識を示す必要があるのではないか。
- ・ 品川区の都市像について、「都市」と記述すると、第 3 者的な印象がしてしまう。当事者として記述するのであれば、「なまち」としたほうが良いのではないか。
- ・ p 5の「だれもが輝く」というタイトルと内容の文章の関係がわかりにくい。「以上の観点から、」からはじまる最終段落の前に、前段のまとめとして、区民 1 人 1 人が自主的な活動を行い考えていく等の記述があるとつながりが良くなるのではないか。
- ・ これまでの議論では、子育てを教育という言葉でくくってきた。しかし、p 6では教育に重きが置かれているため、「子どもを産み育てること」に関する点が社会的に重要な課題となってきていることを踏まえ、「子育て」という表現をタイトルに加えて頂きたい。
- ・ p 9の「暮らしを守る安全・安心都市」というタイトル表現には、その前章までの能動的な姿勢が、急に受動的なものになったような印象を受ける。

委員

- ・ p 10 で区広報の IT 化に関する記述があるが、高齢者を中心としたデジタル・デバイ

ドの解消のため、街中に 500m 範囲程度で、PC の利用を教えてくれる、あるいは気軽に相談することができるボランティアがいると良いと思う。

副委員長

- ・ 伝統と文化について、これまで議論のなかでも指摘がなされてきたが、今回の案を読んでも、何が品川の伝統と文化なのか伝わってこなかった。今の生活に引き継がれている文化について、明確に示さないと分からない。
- ・ 日本では、「教育」は学校教育と一体的に捉えられることが多いため、p 6 では、子育て、子育てという表現があった方が良いと思う。
- ・ p 7 の高齢社会という表現について、近年、国の審議会等では、高齢化社会（高齢化率 14%）、超高齢社会（高齢化率 21%）という表現は使わなくなってきているため、再検討した方が良いと思う。
- ・ 高齢者、障害者だけではなく、離婚数の増大により父子・母子家庭が増えていることから、それらについても触れるべきか検討する必要がある。
- ・ 安全・安心は重要なテーマである。しかし、「都市像の実現に向けて」のなかに「市街地の総合的な整備」とあるが、表現が抽象的であるため内容が分かりにくい。基本構想なので抽象的にならざるをえないが、その点を検討していくことも重要である。
- ・ p 10 の「2. 区民にとって身近な区政の推進」では、情報機器の活用と口コミ等のアナログのバランスをとることが重要である。現在、一人暮らし高齢者の死亡発見は口コミによるものとなっている。
- ・ p 10 の「3. 信頼される職員の育成」では、職員の接遇の良さが区民の信頼につながると読める。しかし、公のやるべきことを自覚した職員であることが前提にあり、その上で接遇の良さがあるべきである。このように、p 10 の 1～3 は、比較的格好の良い文章になっているが、もっと厳しい姿勢で取り組むことを示す必要がある。

委員

- ・ p 6 について、能動的な表現として「子育て」という言葉は良いと思う。一方、応用力の低下が指摘されており、人間を育てる側面も加えて頂きたい。その意味では、「子育て」という表現も重要であると思う。
- ・ 情報インフラについて、新聞をとらない世帯も増えているため、区の情報が確実に伝達されるような仕組みを設ける必要があるのではないかと。

委員

- ・ p 6 のタイトルを、子どもを産み育てやすい環境を整備するという表現に変更したほうが良いのではないかと。

事務局

- ・ 今いただいた意見を踏まえ、明日、学識委員、事務局にて打ち合わせを行い、検討することとしたい。
- ・ また、今頂いた意見のなかには、基本構想に反映するよりも、基本計画に活かす方が良

いものもあるため柔軟に対応したい。

委員

- ・親の教育力の低下が指摘されているが、これは状況の指摘にとどまっている。また、以降の文章は、子育てというよりも教育に関する記述になっている。
- ・かつては、祖父母や地域全体で子どもを育てていたが、今は親のみが中心となり教育を行うため、個人的には、親の教育が重要ではないかと思う。そのため、基本構想のなかにも、親の教育を盛り込んで欲しい。

委員

- ・p 3の協働について、自治会や町会のほかに、区から委託を受けたNPO等を含め、関係団体が参加する協議機関を設置し、各団体の活動を監査・監督等を行うことで、より良い協働団体の育成・発展に向けた取り組みを行っていくことが重要である。
- ・地域によっては、行政の委託事業の受け皿となるNPOがなく、その役割を自治会等が担う地域もある。その意味でも情報共有、監督する機関が必要であると思う。

委員

- ・華僑に関する番組をみたが、そこでは最近世界中に渡った優秀な人々が再度集まり、世界戦略を練っているということであった。
- ・教育は日本の将来にもかかわる話であるため、もっと真摯に取り組む必要がある。

委員

- ・p 8の文面には特色がなく、品川区としての特徴が見えてこない。
- ・例えば、杉並区のレジ袋等、他地域にもアピールすることができる先駆的な取り組みをここに打ち出すことができれば良いのではないか。

濱野区長

- ・基本構想はこれからの区政のバックボーンになるものであるため、区民の方々の様々な知見をもとに作っていきたい。
- ・前回の基本構想策定時からの社会情勢の変化として、人口構成が変わったこと、品川区が都心化してきていることが挙げられる。
- ・区民生活を支える基本構想は、生活に根ざした視点に基づき策定されるものであるが、それらに加えて、生活周辺の諸問題についても考えていくことが必要であると思う。国際都市東京の玄関として、品川は物流の拠点となっているが、一方で、そのために区内の公園用地を都に返還した事実もある。今後の社会情勢を分析し、区としてどうあるべきか、幅広く検討を行っていく必要がある。

委員

- ・先程、羽田の国際化が品川区の国際化につながるとは思えないとの指摘があったが、個人的にはアジア諸国との距離が縮まることで、日本人の出国だけでなく、外国人の入国が増えることにより、区内に国際展示場が増える等、効果が生じるのではないかと思う。

4. キャッチフレーズについて（事務局より資料に基づき説明）

委員

- ・どのようなフレーズを掲げるにしろ、現在、そのような状態にあると誤解する人もでてくるため、「輝く笑顔がにであうまちを目指す・しながわ」等、努力目標的なフレーズにしたほうが良いと思う。
- ・個人的には「あたたかい笑顔」という表現が良いと思うが、今の品川区の成長機運にそぐわないような気もする。

委員

- ・「住み続けたいまち・住んでみたいまち・しながわ」が良いと思う。

委員

- ・「輝く笑顔がにであう」というフレーズは、次のステップを目指すという現在の品川を象徴しているように思うが、あたたかみに欠ける。そのため、「いつまでも住み続けられるまち・しながわ」が良いと思うが、やや受け身のものとなるため、現行の事務局案の方が前向きで良いと思う。

委員

- ・「好きです・しながわ」を提案したい。好きでなければ地域活動に積極的に取り組むこともできないし、また、キャッチフレーズは一言ですばりと言ったほうが良い。

委員

- ・「甲斐と笑顔のあふれるまち・しながわ」、「甲斐と笑顔の発信地・しながわ」、「元気っ・しながわ」が良いと思う。

委員

- ・カナダでは、州のキャッチフレーズを車のナンバープレートにつけて走っている。そのような取り組みを品川でもできればよいと思う。

委員

- ・先祖代々、品川区に住んでおり、個人的には「孫子の代まで品川っ子」というフレーズが良いと思う。

委員

- ・区民の意見を聞くという観点から、公募という手段を考えても良いのではないかと。これまで出された案と公募で得た案のなかから選ぶのが良いと思う。

委員

- ・区報等で公募し、決定したものを再度報じることでPRにもなる。

委員

- ・住民の視点からキャッチフレーズを考えがちだが、もっと幅広い観点で、キャッチフレーズとして最適なものを検討しても良いのではないかと。

委員長

- ・今出た意見等を踏まえ、パブリックコメントにかけることになるので、意見があれば頂きたい。

副委員長

- ・「好きです」などの短い言葉でまとめるとインパクトはある。また、プロセスとしては、公募を行う方が良いと思う。

委員

- ・品川区は様々な面で便利であるが、キャッチフレーズは、逆に利便性ではなく、あたたかみのある言葉としたい。

委員

- ・将来像としてのフレーズを区民から公募する際、言葉の説明だけではわかりにくいため、イメージを表す絵をつけても良いと思う。また、小中学生や画家等にイメージを表す絵を書いてもらうことを依頼するのも面白いのではないか。

委員長

- ・キャッチフレーズは、パブリックコメントのなかで公募することとしたい。
- ・パブリックコメントにかける基本構想素案（案）は、学識委員と事務局で文言等の調整をさせて頂き、取りまとめることとしたい。

5．その他

6．今後のスケジュールについて

- ・11月11日号の区報を通じてパブリックコメントを行うことを予定している。なお、区報では、基本構想素案（案）の概要のみを公開し、全文についてはホームページ等で公開することとしたい。
- ・次回委員会は来年1月17日13時から開催する。

7．閉会

以上